

# J A C S NEWSLETTER

日本消費者行動研究学会ニューズレター

第28巻第4号

発行日●2021年1月20日発行

●日本消費者行動研究学会事務局

## 第 62 回 消費者行動研究コンファレンスのお知らせ

コーディネーターの里村卓也先生（慶應義塾大学）、太宰潮先生（福岡大学）、勝又壮太郎先生（大阪大学）を中心として、「消費者とニューノーマル」をテーマにプログラムを検討中です。なお、第 61 回の会員総会時の仮テーマより変更となりました。

日程：2021年5月22～23日

場所：専修大学（神田キャンパスを予定）

## 第 61 回 消費者行動研究コンファレンス 開催報告

### 〈統一論題〉データサイエンスと消費者行動研究

去る 2020 年 10 月 24～25 日、第 61 回消費者行動研究コンファレンスが開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、第 60 回消費者行動研究コンファレンスは中止となりましたが、第 61 回は JACS 初のオンライン・コンファレンスとして開催されました。このコンファレンスはフル・オンライン型、つまりすべてのセッションをオンラインで行うスタイルで行われました。

1 日目の午前には、JACS-榎尾俊雄論文プロポーザル賞のプレゼンテーションが実施されました。オンライン開催に伴い、同プログラムも動画共有サイトを活用しての実施となりましたが、数多くの参加者のもと活発な議論がなされました。1 日目の午後には統一論題による基調講演とパネルディスカッション、2 日目には青山学院大学の久保田進彦会長による会長講演と自由論題研究報告が行われました。

統一論題では「データサイエンスと消費者行動研究」をテーマとし、関西学院大学の須永努先生による解題が行われたのち、東京大学の岡田謙介先生、横浜市立大学の上田雅夫先生にご講演を頂きました。岡田先生からは「『 $p < 0.05$ 』から ATOM へ：不確実性を受容する統計的方法」、上田先生からは「Data Science、Big Data の活用と消費者行動研究」とのタイトルで講演を頂きました。後半は、関西学院大学の石淵順也先生が加わり、須永先生の司会によるパネルディスカッションが行われました。新しい研究の仕組みやデータサイエンスの活用が広がっている中、分析の前提や不確実性に注意を払った多面的な分析、オープンな研究が志向されるという指摘を受けて、消費者行動研究のあり方をめぐる討議が行われました。

## 学会賞受賞者のお知らせ！

第 61 回消費者行動研究コンファレンスにおいて、学会賞各賞の受賞者が発表されました。日本消費者行動研究学会優秀賞および日本消費者行動研究学会研究奨励賞（青木幸弘賞）の対象論文のうち、受賞者は、次のように決定されました。

日本消費者行動研究学会優秀賞：該当なし

日本消費者行動研究学会研究奨励賞（青木幸弘賞）：下記 1 本

「消費者行動論のための無意識的思考研究の体系化」

多田 伶（大阪大学大学院） 勝又 壮太郎（大阪大学）

本ニューズレターでは、各賞の受賞者を紹介いたします。今号では、研究奨励賞（青木幸弘賞）を受賞された多田伶氏、勝又壮太郎氏にご登場頂きました。

### 第 20 回 JACS—櫻尾俊雄 論文プロポーザル賞

例年どおり、プレゼンテーションにもとづく審査により決定されました。受賞されたのは次の方々です。

最優秀賞：該当なし

優 秀 賞：「音楽が消費者の購買意思決定に与える影響」

芝田有希（関西学院大学大学院）

「触覚イメージの訴求による心理的所有感の生起が消費者行動に及ぼす影響」

石田真貴（関西学院大学大学院）

当論文プロポーザル賞は、学会での報告により、自分の研究を客観的な視点から捉え直すことのできる貴重な機会として位置づけられています。また、当プロポーザルをもとに進められた研究は、完了次第『消費者行動研究』への投稿が求められています。

## JACS の新体制がスタートします！

2020 年 10 月 24 日に開催されました会員総会において学会役員が改選され、2021 年 4 月より、田中洋先生のもとで新体制（2021 年度）がスタートします。

会 長：田中洋（中央大学）

副会長：久保田進彦（前会長・青山学院大学）

澁谷 覚（次期会長・学習院大学）

— 日本消費者行動研究学会 研究奨励賞（青木幸弘賞） —

「消費者行動論のための無意識的思考研究の体系化」

多田 伶（大阪大学大学院）  
勝又 壮太郎（大阪大学）

この度は、研究奨励賞（青木幸弘賞）をいただき、誠にありがとうございました。名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。まずは、論文の掲載までに、編集委員、レビュアーの先生方から有益なご指摘を頂戴しましたこと、厚く御礼申し上げます。また、学会や研究会を通じて、多くの先生から建設的なコメントをいただき、感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、これからも研究を進めて参りたいと思います。以下、本論文を作成した動機とともに、今後の展望を述べさせていただきます。

近年、消費者行動研究において、さまざまな理論が誕生し、消費者の情報処理プロセスの解明が進んできました。とくに、ノーベル経済学賞を受賞した Daniel Kahneman 著の *Thinking, Fast and Slow* は、消費者の認知活動として、合理的、直感的な情報処理が存在することを示し、世界的なベストセラーとなりました。これらの研究成果は二重過程理論として体系的に整理されていますが、「低速で意識的な情報処理」、「高速で無意識的な情報処理」を検討している点に特徴があります。

今回、私達は社会心理学者 Ap Dijksterhuis が 2006 年に提唱した無意識的思考理論に端を発する、無意識的思考研究に注目しました。同研究では消費者の思考モードとして、意識的思考と無意識的思考を仮定します。前者は「低速で意識的な情報処理」、後者は「低速で無意識的な情報処理」に相当すると定義されています。判断・意思決定が中断した場合に、意識下で自動的に作動している情報処理が無意識的思考です。この点に留意しつつ、無意識的思考研究が消費者行動論にもたらす意義を考え、研究を行いました。

本論文の主な成果として、以下の 2 点が挙

げられます。第 1 に、消費者行動論への応用を視野に入れ、先行研究の整理を行った点です。社会心理学の研究対象として、消費者行動が取り上げられることは多いですが、消費者行動研究で提唱された情報処理や購買意思決定の理論体系に沿う形で、過去の研究をまとめたサーベイ論文は存在していませんでした。そのなかで、本論文は消費者行動研究の分析枠組みを用いて、主要な論文を整理しました。また、15 年間、1072 件の先行研究のタイトルと要約を分析するなかで、無意識的思考研究の領域を示し、先行研究における潮流の変化を明確にした点でも貢献があると考えております。学術誌間で研究テーマに大きな違いが存在することも明らかになりました。

現在、無意識的思考研究の成果は多様な学術誌で公表されています。ただし、心理学系の雑誌と比較して、消費者行動やマーケティングの雑誌に掲載された論文数は少ないのが現状であり、発展段階の研究分野でもあると私達は認識しております。今後、現代社会におけるマーケティング課題に着目した研究が求められており、二重過程理論のような既存理論と無意識的思考理論を融合させる取り組みの必要性も論文の推敲を重ねるなかで体感いたしました。

情報通信市場の拡大とともに、情報過多は大きな社会問題となっており、消費者が入手可能な情報、製品やサービスの数は増加の一途をたどっています。消費者の情報処理能力は限定的であるため、複雑な判断・意思決定では、無意識的思考が有効になると多くの研究で指摘されてきました。情報過多が顕著な現代社会において、マーケティング戦略を立案、実行する際、本研究がその一助となれば幸いです。

## 2019 年度決算報告ならびに 2020 年度予算案

2020 年 10 月 24 日に開催された役員会および会員総会において、2019 年度の決算報告、および 2020 年度の予算案が下記のとおり承認・決定されました。ここにご報告いたします。なお、2020 年度春のコンファレンスが中止のため、秋のコンファレンスでの承認・決定をいたしました。

科 目	2019 年度 予算額	2019 年度 決算額	差 異	2020 年度 予算額
1)収入の部				
会費収入	6,840,000	5,915,000	925,000	6,850,000
学術会員	4,580,000	4,115,000	465,000	4,600,000
学術学生会員	405,000	325,000	80,000	460,000
個人賛助会員	205,000	120,000	85,000	190,000
法人賛助会員	1,050,000	1,000,000	50,000	1,000,000
滞納等	600,000	355,000	245,000	600,000
コンファレンス収入	2,000,000	1,801,000	199,000	1,000,000
学会誌販売収入	160,000	62,286	97,714	160,000
雑収入	0	31,102	-31,102	0
助成金	500,000	500,000	0	500,000
収入合計	9,500,000	8,309,388	1,190,612	8,510,000
2)支出の部				
印刷費	400,000	369,121	30,879	400,000
ニューズレター	400,000	369,121	30,879	400,000
事務費	1,000,000	952,989	47,011	1,060,000
学会誌印刷・発送一式費	500,000	420,692	79,308	500,000
通信費	150,000	143,122	6,878	150,000
Web ホスティングサービス利用費	100,000	101,798	-1,798	110,000
その他	250,000	287,377	-37,377	300,000
事業運営費	4,550,000	3,849,634	700,366	3,250,000
コンファレンス支出	2,000,000	1,852,928	147,072	1,000,000
コンファレンス開催費(開催校補助費)	400,000	400,000	0	200,000
コンファレンス会場費	270,000	327,010	-57,010	—
学会誌作成費(査読謝礼費)	250,000	147,696	102,304	250,000
査読システム運用費	250,000	132,000	118,000	250,000
学会誌サポート費	550,000	360,000	190,000	550,000
国際交流事業費	250,000	200,000	50,000	250,000
ワークショップ開催費(開催補助費)	480,000	0	480,000	350,000
プロポーザル賞賞金	0	400,000	-400,000	0
学会賞賞金	100,000	30,000	70,000	100,000
コミュニケーション促進費	—	—	—	300,000
予備費	3,550,000	3,342,765	207,235	3,800,000
査読(出版)システム開発費	250,000	0	250,000	450,000
事務委託費	3,300,000	3,342,765	-42,765	3,350,000
支出合計	9,500,000	8,514,509	985,491	8,510,000
当年度収支差額	0	-205,121	205,121	0
前年度繰越金	34,031,689	34,031,689	0	33,826,568
次年度繰越金	34,031,689	33,826,568	205,121	33,826,568

上記の通り報告いたします。

事務局担当理事 高橋 広行 印

上記の報告を適正なものと認めます。

監事 八島 明朗 印

## 会費の値上げについて

先の第 61 回消費者行動研究コンファレンス（オンライン）会期中の第 61 回会員総会においてご承認いただきましたように、2021 年度より、学会会員会費を 10,000 円から 12,000 円へ増額させていただきます。（学術学生会員・個人賛助会員、法人賛助会員の会費は据え置きとさせていただきます。）

会費増額の背景として、今回のコロナ禍におけるオンライン学会の開催費用をはじめとする学会のデジタル化（学会 WEB サイトの刷新、オンライン決済、オンライン学会への対応）に関して支出が見込まれること、並びに各種支出における消費税の増税対応等があります。

出費多き折かと存じますが、何とぞご理解のほどお願い申し上げます。

### 1. 年会費

学会会員： 12,000 円（現行：10,000 円）

学術学生会員： 据え置き（現行：5,000 円）

個人賛助会員（一口）： 据え置き（現行：5,000 円）

法人賛助会員（一口）： 据え置き（現行：50,000 円）

※すべて消費税は不課税

### 2. 実施時期

令和 3 年度（2021 年度）会費より

## 入会申請書の提出方法変更について

ハンコレス、E メールによる提出受付をスタートします。

会員の入会につきましては、年 2 回のコンファレンス 役員会にて入会の承認を行っております。迅速な申請を可能にするため、提出方法を変更いたします。入会予定の方がいらっしゃる場合、ご助言をいただければ幸いです。

①ハンコレス：現在、学会会員 2 名の推薦を要件とします〔学会会員〕及び〔学術学生会員〕の入会申請につきましては、時代の趨勢も考慮し、推薦者の署名・押印を廃止します。今後の入会申請に際しては、推薦者より承諾を得たメールアドレスをご提出ください。なお、〔法人賛助会員〕〔個人賛助会員〕につきましては、今後も推薦者は不要です。

②E メール提出：入会申請書は、E-mail（[jacs@asas-mail.jp](mailto:jacs@asas-mail.jp)）にてご提出ください。

**詳しくは、学会 WEB サイト(<http://www.jacs.gr.jp/admit/index.htm>)をご覧ください。**

## 「特集論文」公募を開始いたします

すでにコンファレンスなどでも告知されておりますように、学会活動活性化という目的に基づいて、以下のとおり『消費者行動研究』の特別号（2022年刊行予定）に掲載する特集論文を募集いたします。特集論文への投稿を目指す研究者・大学院生の方々からの多くの応募を期待しております。

### ● 特集論文テーマ

#### テーマタイトル：【環境変化に対応する消費者行動研究の新領域】

新たなテクノロジーやメディアの登場、そして自然災害や未知のウイルスの世界的拡大などによって、消費者を取り巻く環境は劇的に変化しています。今回の特集論文では、今日の変化する消費者環境における新しい消費者行動研究を特集することといたしました。

研究テーマの例としては、以下のようなトピックを挙げましたが、これらのトピックに限定されるものではありません。変化する消費者環境や消費者課題に着目し、新しい分析調査手法を考慮した、意欲的な研究論文の投稿をお待ちしております。

具体的テーマとして考えられる例：

- 1) 新しいテクノロジーと消費者行動に関する研究
- 2) ソーシャル・ネットワークと消費者行動に関する研究
- 3) パンデミックと消費者行動に関する研究
- 4) アクセスペースの消費やリキッド消費に関する研究
- 5) 消費者のウェルビーイングに関する研究 ...など

### ● 出版までの流れ

応募受付期間は、2021年10月1日～2022年1月6日です（応募先：日本消費者行動研究学会事務局 [jacs@asas-mail.jp](mailto:jacs@asas-mail.jp)）。査読審査にて採択された論文は、2022年春のコンファレンスでご発表頂いたのち、再度の審査を経て2022年末にオンライン版として先行出版される予定です（その後、紙媒体の『消費者行動研究』に掲載されます）。

### ● 特集論文に関する賞の新設（予定）

特集論文のうち、特に優秀な発表および論文に対して学会から賞を授与することを計画しております。詳細に関しては、改めてお知らせいたします。

詳細なスケジュール、応募方法、査読プロセスなどに関しましては、以下の募集要項ページをご参照ください。

[http://www.jacs.gr.jp/application/special\\_issue1.htm](http://www.jacs.gr.jp/application/special_issue1.htm)

皆様からの積極的なご応募を、心よりお待ちしております。

<お問い合わせ先>

日本消費者行動研究学会 事務局 [jacs@asas-mail.jp](mailto:jacs@asas-mail.jp)

### 学会費の「銀行振込」についてのお願い

会費納入に際しましては、事務局から郵送でお送りしている「郵便局の振込用紙」でのお振り込みをお願いしておりますが、

銀行振込をご利用の場合、大学名や企業名などの「組織名」から入力されますと、振り込みました「個人名」が特定できないというケースが出てきます。「銀行振込」の際には、必ず「個人名」から記入していただきますよう、ご協力をお願い致します。

やむを得ず組織名から（または組織名のみ）の振込人名になる場合は、事務局まで e-mailにてご一報いただきますようお願い致します。

### ご所属・ご住所の変更についてのお願い

**★ご登録の所属先等が古いままで、更新されていない方が多く見受けられます。**

ご所属やご住所が変更となる際には、必ず JACS 事務局へご連絡ください。お手数ではございますがよろしくお願い致します。

なお会費納入時、「郵便局の振込用紙」に変更箇所を明記されるケースが見受けられますが、変更のご連絡は、下記 JACS 事務局までお願い致します。

なお、JACS Website(<http://www.jacs.gr.jp>)からご自身で直接、変更可能ですので、是非ご利用ください。

### 新入会員の募集について

本学会への入会を希望される方は Website(<http://www.jacs.gr.jp/admit/index.htm>) から入会申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、事務局まで Eメール ([jacs@asas-mail.jp](mailto:jacs@asas-mail.jp)) でお送り下さい。

#### ●入会資格

[学会会員]

消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者（在籍経験者を含む）、およびそれに準ずる者（文部省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教歴を有する者、等）。但し、学会会員 2 名の推薦が必要。

[賛助会員]

本学会の趣旨に賛同する法人および個人。

#### ●入会規定

<http://www.jacs.gr.jp/admit/index.htm>

#### ●年会費

※令和 3 年度（2021 年度）より

[学会会員]	12,000 円
	（但し、大学院生は 5,000 円に減免）
[賛助会員]	個人会員 1 口 5,000 円
	法人会員 1 口 50,000 円

## ●日本消費者行動研究学会(JACS)事務局のご案内●

(事務局) 同志社大学 商学部 高橋広行研究室  
〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入  
Email: [jacs.assist@gmail.com](mailto:jacs.assist@gmail.com)

(事務取扱) 日本消費者行動研究学会 事務取扱  
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバンビル 4F  
一般社団法人 学会支援機構内  
Tel: 03-5981-6025 Fax: 03-5981-6012 Email: [jacs@asas-mail.jp](mailto:jacs@asas-mail.jp)

<JACS Website> <http://www.jacs.gr.jp>